

## 越谷市大成町に展開する「クレバススプレー」

秦野 秀明

### はじめに

平社 定夫(二〇二四)<sup>(1)</sup>では、「クレバススプレー」が「越谷市大成町に展開する」との記載がある。

筆者は令和五年(二〇二三)<sup>(2)</sup>に、「治水地形分類図」<sup>(3)</sup>で、越谷市相模町五丁目・同六丁目・大成町一丁目・同二丁目付近に描かれる「微高地(自然堤防)」に対して、「自分で作る色別標高図」<sup>(3)</sup>を活用し、同地域の「旧河道」に関する「新説」の論考の発表を行った。

しかしながら、今回出版された平社 定夫(二〇二四)<sup>(1)</sup>を精読した結果として、筆者の「新説」を撤回して、「クレバススプレー」が「越谷市大成町に展開する」との記載に全面的に賛同する。

### 一．「クレバススプレー」とは何か

「クレバススプレー」とは何かという点について、平社 定夫(二〇二四)<sup>(1)</sup>での記載を以下に引用する。

「洪水時に自然堤防が破堤し、流失した細かな砂・シルトを含む洪水流によって形成される堆積地形。大規模な洪水では自然堤防が破堤することがあり、破堤口から勢い

よく洪水流が流出する。そのため、破堤口近くでは強い浸食作用で凹地ができ、その先では洪水流の勢いが衰え、洪水流に含まれていた砂が堆積し、さらに先にはシルトが堆積する。一度破堤した箇所は、洪水のたびに洪水流が流出することになり、破堤口近くの凹地はより深くなり池として残ることがある。また、その先には洪水流の流路ができ、流路には砂が堆積する。これらの流路は基本的に洪水時にだけ水が流れ、後背湿地で消失する。一方、流路の両岸には流路からあふれ出たシルトや細粒な砂が堆積し微高地をつくる。洪水流は勢いよく流出するので、破堤口から側方に広がる傾向をもつ。このことを反映して、流路も放射状に広がり堆積物も側方に広がることになる。こうして、全体として舌状・扇状の平面地形をもつと地形が生まれる」

さらに、使用される「用語」について、平社 定夫(二〇二四)<sup>(1)</sup>での記載を以下に引用する。

「地形全体をクレバススプレー(Crevasse splay)、クレバススプレーを構成する堆積物をクレバススプレー堆積物(破堤堆積物、Crevasse splay deposits)、破堤箇所近くに形成された池を押し堀(英語の用語は見出せない)、クレバススプレー中の流路をクレバス流路(Crevasse channel)、そして、クレバス流路沿いの高まりをクレバスレビー(Crevasse levee)とする」

## 二・越谷市大成町での展開

「クレバースプレー」の「越谷市大成町での展開」について、平社 定夫（二〇二四）<sup>(1)</sup>での記載を以下に引用する。

⑰は越谷市大成町に展開する。現地調査では、大相模河畔砂丘が2か所で決壊しているのを確認した。河畔砂丘を横断する2流路はその南の凹地で合流し、凹地からクレバス流路が約170度（※筆者が「度」に変換）の範囲に広がっている。⑰はクレバースレートの発達は良くない。このため標高分布からクレバースプレーの舌状の形を復元することは困難である。しかしながら、クレバス流路は米軍撮影の空中写真などで確認でき、その分布から、本地域はクレバースプレーと判断される」

### 結びにかえて

「クレバースプレー」が「展開する越谷市大成町」付近は、古来「大相模郷」<sup>(4)</sup>と称せられて、「武蔵七党」の「野与党」の支族である「大相模氏」が十二世紀頃には移住したと推定<sup>(4)</sup>される地域でもあるが、今回出版された平社 定夫（二〇二四）<sup>(1)</sup>により、由緒ある「大相模郷」の「地形」の形成に関する説明に対して、最終的な決め手となった感がある。

この場を借りて、さらに、僭越ながら越谷市の地誌の調査・

研究を行って来た諸先輩方を代表して、平社 定夫氏に御礼を申し上げます。

### 注

(1) 平社 定夫（二〇二四）『春日部市史 自然誌編』春日部市 pp.13-18, pp.29-36

※「図1-10 春日部市と周辺の河道、旧河道、およびクレバス流路」p.18

(2) 秦野 秀明（二〇二三）

「仮説「大相模郷」の地形は「元荒川（利根川本流）」の「旧河道」が形成した」

[http://koshigayahistory.org/230614\\_ohsagami\\_goh\\_h\\_h.pdf](http://koshigayahistory.org/230614_ohsagami_goh_h_h.pdf)

秦野 秀明（二〇二三）

「大相模郷の旧河道と自然堤防の推定を可能にした新たな手法」

[http://koshigayahistory.org/230710\\_ohsagami\\_goh\\_new\\_approach\\_h\\_h.pdf](http://koshigayahistory.org/230710_ohsagami_goh_new_approach_h_h.pdf)

※本稿を以て、注(2)の成果を撤回する

(3) 「地理院地図（電子国土Web）」  
<https://maps.gsi.go.jp/>

(4) 大村 進（一九七五）『越谷市史 第一巻 通史上』越谷市 pp.189-196